



# みなみっ子

39号

令和7年12月18日(木)

南城市立大里南小学校

文責 校長 與儀 毅

学校教育目標

〇かしこく

〇やさしく

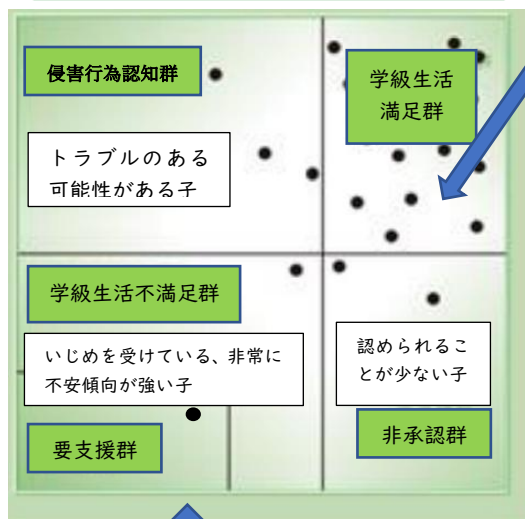
〇たくましく

## QU 検査 楽しい学校生活を送るためのアンケート

南城市立学校では、学校生活意欲と学級満足度の2つの尺度で構成するQU検査を実施しています。小学校は1年生年間1回、2年生から6年生までは1学期に1回、2学期に1回の計2回実施しています。この検査は学級経営のための有効な資料が得られ、学級診断アセスメントとして活用しています。結果からは、いじめや不登校などの問題行動の予防と対策にも活用することができます。

学級全体の様子が把握できる。  
(ドットは児童生徒一人ひとりを表す)

### 満足度尺度のモデル



要支援群への丁寧な対応

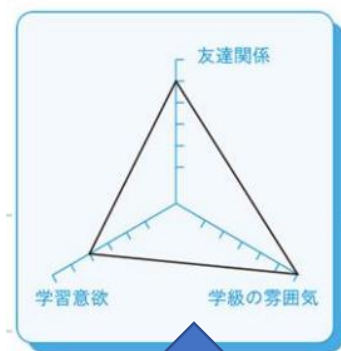
学校生活意欲尺度  
やる気のあるクラスを  
つくるためのアンケート

- ・友だち関係
- ・学習意欲
- ・学級の雰囲気

学級満足度尺度  
いごちのよいクラスに  
するためのアンケート

- ・承認（友達や教師から認めれているか）
- ・被侵害（不適応感、いじめ・冷やかしなどを受けているか）

### 学校生活意欲 プロフィール 小学校



学級全体の状況把握

QU検査の結果は、まず各学級で児童一人ひとりの状況の把握、次に学年で共有し、同時に校長も全学年・学級の状況と個別写真を確認しながら個別の状況把握を行っています。

左側のドットで示されたものでは、左下の要支援群の子と学級生活不満足群の子への対応、そして非承認群の子がいじめを受けていないかどうか、日々の生活の様子をより丁寧に見るようにしています。

QU検査の結果を基に、各学年、学級での具体的な手立てを検討し実践するようにしています。

## 言葉遣いについて

子どもたちの言葉遣いが気になることがあります。「死ね」「ばか」など相手に言っただけだとわかっていても言う子がいます。その様な状況では上のQU検査でも悪い結果がでると思います。言葉遣いが悪い子を見ていると、多くの子は自分自身がそのような言葉を言われていないか心配になります。また、言葉遣いが悪い子の多くが、自己肯定感が低いようにも思えます。ちなみに自己肯定感とは、自分自身を無条件に受け入れ、価値ある存在として認識する感覚のことを言います。学校では、学校生活全般において、相手を思いやることができるように、授業場面でも、みんなが安心して発言ができるような取組を行っています。各家庭や、大人が子どもと関わるあらゆる場面においても言葉遣いを丁寧にしていきましょう。また、子どもたちの言葉遣いにも関心を持ちましょう。ゲームをしているときにとても乱暴な言葉遣いをする子もいるようです。その場での声かけが大切です。

新聞報道で「怒鳴る指導」保護者の3割容認（沖縄県スポーツ協会調査）がありました。沖縄県は全国的に比較してとても高い状況にあります。県内の高校部活でとても悲しいことがあったにも関わらず、選手育成には怒鳴ってもいいという感覚が残っています。子どもたちが人権感覚を持った言葉遣いをするためにも、私たち大人が素敵な言葉遣いをしていくことが求められます。子どもたちを変えるには、まず、大人が変わらなければなりません。「問いかける」大人が、子どもを変え、伸ばしていくと思います。課題が発生した時、頭ごなしに怒るのではなく、「何がいけないと思う？」「どうしたらいいと思う？」など問いかけること、そうすることが自分で考え、動ける子どもになり、自己肯定感も高まると思います。自己肯定感が高まった子は他人に対してゆとりを持って接することができ、結果として言葉遣いがよくなると思います。